大規模収穫・調製に適した品質向上のための小麦適期収穫システム

1　中核機関・研究総括者

独立行政法人農業技術研究機構北海道農業研究センター・桑原達雄

2　研究期間

2002～2004 年度（3 年間）

3　研究目的

衛星等の隔測情報や気象および土壌情報から地域全体の小麦の生育状況の推定技術を確立し、コンバインや乾燥施設の効率的運用をはじめとする合理的な適期収穫システムを確立することで、広域地域を対象とした品質向上のための収穫システムの開発を行い、民間流通制度のもとで今後一層厳しくなる品質取引や仕分け流通に対応できる体制を構築し、高品質小麦の安定供給を図る。

4　研究内容及び実施体制

① 衛星リモートセンシング等を用いた小麦生育情報利用技術の開発（独立行政法人農業技術研究機構、北海道立農業試験場、株式会社ズコーシャ）

人工衛星画像を用いて土壌の違いを考慮した小麦穂水分低下順位、蛋白含有率の推定を行う。

② 圃場環境情報に基づく小麦生育及び品質予測技術の開発（独立行政法人農業技術研究機構、北海道立農業試験場）

気象データに基づく収穫適期予測、低アミロ危険度予測、およびＧＩＳを用いた小麦蛋白含有率の高精度予測技術を開発する。

③ 広域生育情報を利用した小麦の品質向上のための収穫・乾燥調製システムの開発（ＪＡめむろ、北海道立農業試験場）

小麦生育・品質予測技術による収穫機械、乾燥施設運用法の評価および分別集荷技術の開発を行う。

5　目標とする成果

衛星リモートセンシングを用いた小麦生育情報推定技術、気象や土壌情報に基づく小麦生育及び品質予測技術、広域生育情報を利用した小麦の品質向上のための収穫・乾燥調製システムが開発される。これにより、小麦収穫乾燥の合理化・効率化への道が開けるとともに、国産小麦の品質向上が期待される。